2023-2024RIテーマ
第2600地区　丸子ロータリークラブ会報　（創立1963年8月28）
世界に希望を生み出そう
MARUKO Weekly Report
2023-2024丸子ＲＣテーマ
「ロータリーの活動の輪を 地域の 力 に 」
RI会長/ゴードン・R・マッキナリー　D2600ガバナー/折井正明
会長/田中利幸　副会長/小宮山陽一　幹事/小池功二　会報委員長/ 笹井寿美枝
第2845回例会　2024年2月8日　Vol.61/No.21

外部卓話

【児童クラブの運営・現状・課題】

ワーカーズコープ上田事業所長　市川一恵様

この度はお招きをいただき、ありがとうございます。 また、毎年児童クラブを利用されるお子さんたちへの素敵なプレゼントもありがとうございます。 とてもありがたく、毎日楽しく使わせていただいております。

１・上田市の児童クラブについて

上田市の児童クラブ 24 現場（36 単位） 丸子エリア 4 現場 【丸子北児童クラブ・丸子中央児童クラブ・塩川児童クラブ・西内児童 クラブ】西内児童クラブについては令和 6 年度西内小学校が丸子中央小学校に統合となりますが 児童クラブのみ存続となりました。西内小学校内に残り、バスで下校してくるお子さんを迎え、お預かりとなりますが、下校時間や保護者のお迎えの時間など、新学期が始まってみないと分からないことがあるため、利用人数・頻度はまだ未定です。

２・上田市指定管理について

2009 年から上田市より指定管理を受け、私たちの法人にて児童クラブを運営。 現在 4期 14年目であり、5 年毎更新のため令和 6 年度指定管理更新のプロポーザルの時期となります。

３・ワーカーズコープだからこその児童クラブ運営について

私たちの労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団上田では、協同労働という働き方をしています。この働き方は、労働者協同組合法という 2020年に法制化、2022年10月に法施行されました。組合員が出資し、話し合い、それぞれの意見を反映して事業がおこなわれ、組合員自らが事業に従事するという働き方です。 このことから、私たちは話し合いを大切にし、各クラブごとに、どのような運営をするのかみんなで決めて保育をしています。 上田事業所では、児童クラブ運営の他にも様々な活動をしています。おけまる食堂（子ども食堂）・おけまるジュニアセンター（不登校支援・居場所）・ボード ゲームスペース Blokus・桑の葉/繭華（習字教室・蚕都上田の伝統継承他）・秋和みんなのおうち（制服バンク・居場所）等です。 これらは児童クラブを運営する中で派生した活動もあり、児童クラブでお子さんと過ごす中で必要だと思われることを仕事おこししています。これも子ども家庭庁が提言する「こどもまんなか」を実現するために必要な事業だと感じています。児童クラブを運営しながらだか らこそ、必要とすることにつなげていかれるということは、大きな強みで大切にしていることです。

４．児童クラブの課題

・人材確保（放課後支援員の確保）・給与 ・人口減少と反する児童クラブ利用児童増加 ・施設の老朽化 ・児童クラブの利用方法（早朝保育・延長保育等） 毎月の上田市教育委員会学校教育課担当者様との定期協議時にご相談させていただいており そのような場を設けていただいていることがありがたいことです 。

【子供達の現状と課題】

塩川児童クラブ責任者　齊藤倫明様

一子どもたちを取り巻く世の中の変化

40年前 30年前の学校教育はある意味自由で世間も学校教育に一目置いていました。保護者も学校の先生を尊重し、「学校の敷居は一段高い所」にありました。学校から子どものことで呼び出されたりしたら相当緊張して職員室に入ったものです。 当時、保護者は教師に全幅の信頼を寄せ任せていました。今なら職員の退職にも結び付きかねないようなことも容認されていたのが実情です。

ところが現代は全く違ってきています。親の高学歴化、人権意識の高揚、教育界スポーツ界では体罰の禁止・厳罰化、家庭の核家族化、過度な要求をしてくるモンスタ ーペアレントの出現などなど昔と比べ世の中の環境や意識が大きく変遷してきている のです。

事務所/〒386-0404　上田市上丸子1695　丸子コミュニケーションセンター内
TEL/0268-42-3988　FAX/0268-42-4105　E-Mail/marukorc@siren.ocn.ne.jp

そのような中にあって学校現場の先生たちもかなり疲弊しています。（全国で22年度、公立学校教員の精神疾患休職が6539人）40年以上前は１学級45人定数の時代であったが今は国の基準では１学級の定員35人であるが、子どもたちの特性に変化が見られ支援児童の数もクラスには１０％程度いるといわれ担任の先生方も苦労しています。就学指導委員会の判断でも普通学級か支援学級が望ましいかはっきりしない児童も抱え、個別対応が必要な子どもさんに職員の数が足りていないという現状があります。

二 家庭環境に伴う家庭教育力の変化

昔は三世代で暮らす家庭が多くありました。祖父母 両親 兄弟姉妹など。 ところが最近は核家族化が多数を占め両親と子どもの家庭環境の中で育っている子どもが多くを占めています。小学校に子どもを持つ親は年齢も 30 代 40 代 というように若い。また夫婦共稼ぎで毎日時間に追われ、慌ただしく生活が切り盛りされています。 児童クラブを利用される子どもさんを見ていると・・・というよりもその保護者と応対すると「毎回気持ちよく挨拶をしてくれる方」「礼儀があり、しっかりお話をさせていただける方」もいれば、親自身がなかなか挨拶を交わせなかったり、話がなかなか通じない保護者もいます。概しては、祖父祖母の方の方が挨拶、礼儀がきちんとしていて気持ちよく接することが出来るというのも事実です。保護者とのやり取りが円滑にできればよいのですが、なかなか難しいところがあります。

厳しい言葉ではなく如何に「愛語」（あたたかいこころのこもった言葉をかけること。これによって人々に接近し、その人を悟りの境地に導くこと）の言葉をもって接していけるかがこちらの腕の見せ所ともいえま す。

三 児童クラブの役割

上田市の児童クラブの大きな役割は「子どもを持つ親が安心して日々就労に就けるための就労支援」が大きな役目です。

現在、どのクラブも 1 年生から 6 年生までの範囲でお子さんを受け入れていますが、児童クラブと学校とが大きく違うところは、児童クラブが異学年の子どもを同じ場所で一緒に過ごしているということです。学校ならば通常の多くは（行事や全校集会、課外活動は別にして）同じ学年の集団で学習し、生活している。つまり同年齢集団で活動しているのでそこが大きく違うところです。

昭和の時代を思い返してみると、学校から下校後、広場や空き地、神社 境内 に三々五々子どもたちが集まり、そこに来た子から「入れて！」といって遊びの中に加わり男女学年関係なく夕暮れまで遊んでいました。その遊びを取り仕切るのは一番上の学年の上級生。上級生はリーダー的存在となり小さい子どもたちをまとめ 取り仕切っていました。また異学年の集団なので 1，2 年生などは当然何をやっても力に劣ります。それを考えて上の子は下の子にはハンディを与えたりかばったりしてあげるという思いやりの心も自然と生まれ、育っていきました。ところが現代では、今の子どもたちは学校の授業が終わると習い事や社会スポーツ、はたまた家でゲームに熱中などという生活形態になってきました。「空き地で子どもたちの遊ぶ声が消えて久しい。」という言葉を高齢の方々からはよく耳にします。そういう点において児童クラブではそれぞれの家庭に帰る前にいろいろな学年の子が縦の関係で交われるということがとても大きな貢献を果たしているといえます。（EX ド ッジボールで 1 年生は命２つ つまり 2 回あたるまでセーフなどというルールも自然に作られています）

四 子どもをまんなかにおく・・・ ということ

近頃、「子どもをまんなかにおいた教育」という言葉が子ども家庭庁より提言されています。

「常に子どもの利益を第一に考え、子どもに関する取り組みを脇の方や後回しではなく真ん中に据える社会」、ということのようですが、なんでもかんでも子どもの発する意のまま気のままということではないと考えます。 つまり子どもの自由勝手にさせるということと取り違えてはいけないと考えます。

昭和の時代はこどもが何か事を起こすと頭ごなしに「コラー」「ばかもん」と いうような風潮でした。学校でも家庭でも地域でもそんな感じでした。しかし、それでは力の強いもの、権力の強いものからの威圧による封じ込めに頼っての指導であるので子どもの成長にはプラスにならないということがはっきりしてきたのだと思います。

要は外圧的な教育でなく子どもたちの自らの内発的な「自己への問いかけを誘発」していくような指導が必要なのだと思います。それにはまず、「子どもたちからの思いをよく聞くこと」、「自分の行為を見つめなおさせること」「どうすればよいのか解決策を自ら考えさせること」・・・このような指導が 子どもを育てることになるのだということがわかってきました。

威圧的な指導は 時間もかからず、自分の怒りをぶつけてその場は解決したように思えます。しかし、その子の心の成長には寄与しません。子どもに諭すように問いかける言葉はこちらの忍耐と時間を要しますが子どもの心（自発性 自立 自律）を育てていきます。

児童クラブでも研修等を行い「こどもをまんなかにおく」ということを 意識して子どもたちと接しようと頑張っています。

例　会　日　誌

*司　会　栗木悦郎さん
*ＳＡＡ　佐藤重喜さん
*ロータリーソング　それでこそロータリー
*ゲスト
特定非営利活動法人ワーカーズコープ
上田事業所長　市川一恵様
丸子エリア長　齊藤倫明様

【副会長挨拶　　小宮山陽一副会長】

田中会長のお父様が昨日ご逝去されました。たまたま２月８日は田中先生６６歳の誕生日です。田中家のご意向で家族葬という事なので弔問もお花もご辞退という事です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて月曜日は久々の大雪に驚かされました。その雪の中私は東御市の玉村豊男さんのアルカンヴィーヌワイナリーで会議と研修会がありました。場所は湯楽里間の上、浅間カントリーゴルフ場のさらに上にあります。
懇親会が終わり帰るころには車がすっぽりと雪に覆われスタックする車両が何台もありました。

10数年前に玉村豊男さんの講演会を聴いたことがあります。「東御市を中心としたワイナリー構想」そんな夢みたいな事できるのかなぁ？東京から来た文化人にできるの？って正直懐疑的に思っていました。

セミナーの中で現在千曲川ワインバレーエリア千曲市から東信地域全域で醸造施設を持ち自家醸造しているワイナリーが28件、ブドウ園を持ち委託醸造しているヴィンヤードが32件合計60件あります。
丸子地域ではメルシャンのほかに生田で2件、東塩田に3件、和田村に2件、立科八重原にも8件あります。
長野県全体では5ヶ所のワインバレーがあり数年後には山梨県を抜き全国一となるそうです。
これだけ伸びた要因として
・小規模ブドウ生産者でもアルカンヴェールの施設を借りで醸造でき自分のブランドで製造販売できる。
・千曲川ワインアカデミーというセミナーを毎年開催している
「栽培」から「醸造」、「ワイナリー経営」のセミナーを1年かけて30回シリーズで開催すでに10年間継続、卒業生は300人
ビジネス的に考えると「醸造業」は期間が長く回転率が悪く資金が必要な業種で参入障壁が高く新規参入が困難な業種と言われている中でこういう地道な活動の結果小規模事業者でもワインを作れるビジネスモデルだと感銘しました。
大手のメルシャン、マンズとは違った魅力がある個性的なワインを楽しむのも一興かと思います。以上アルコールを一切飲まない私の感想でした。

本日はワーカーズコープの市川さんと斉藤さんをゲストにお招きし委託管理運営されている児童館や子供たちのお話を頂きます。
我々ロータリーにとっても青少年向けの事業は活動の大きな柱の一つです。しっかりと勉強させて頂きます。どうぞよろしくお願いいたします。

【幹事報告　　小池功二幹事】

今週の着信
・第2600地区より
デジタル化オンラインセミナー開催案内
インターアクト地区大会開催案内
6月9日　松本大学
・上田ローターアクトクラブより
次年度よりクラブ休会の案内
・ロータリーの友事務所より
ロータリー手帳販売の案内
必要な方は事務局まで連絡
・豊かな環境づくり上小地域より
「たまき」送付

今週の配布物
財団、米山より寄付領収証

今週の配信
会報№2844号

週報恵送
無し

【出席報告」
会員数　40名（内女性会員7名）
出席免除者　12名
本日の出席者　13名（内出席免除者の出席3名）
本日のラッキー賞
佐藤恵太さん（お菓子）

「久しぶりの出席です。ありがとうございます。
事務所スタッフと頂きます。」

【にこにこＢＯＸ報告】
「お弁当屋さんのお姉さんに痩せた？と言われましたが痩せていません」　服部正さん
「ワーカーズコープ所長市川様、エリア長齊藤様、ようこそお越しくださいました。本日は宜しくお願い致します」
小宮山陽一さん、小池功二さん、佐藤重喜さん
内堀敏高さん、宮本伸司さん、栗木悦郎さん、斎藤育子さん、佐藤恵太さん、奥寺浩司さん、山浦智城さん、河西満正さん
本日の喜投額　12,000円
今年度累計額　494,200円